

ZUBR 型大型エアクッション艇が渡海上陸

漢和防務評論 20140730(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は、ウクライナから ZUBR(ズーブル)型大型エアクッション艇を導入しつつあり今後、国産化を図ろうとしています。

大型エアクッション艇は搭載量も大きく、速度も早く、島嶼への上陸作戦には最適のように見えます。しかし中国は本格的な上陸作戦の経験がなく、大型エアクッション艇の本格運用には踏み切れないようです。

漢和防務評論は、中国は今後 10 年以内にエアクッション艇の大量生産に踏み切るのではないかと述べています。常識的に見れば制海権、制空権のない海域でのエアクッション艇の運用はあり得ないと思います。

KDR 香港特電：

中国は、今年 4 月までに、広州において 1 番目の ZUBR 型大型エアクッション艇の組み立てを終了した。この艇は、ウクライナの設計図を基に完成させたものであり、ウクライナは、中国に対し、設計図の全て及びファン、エアクッション装置等、重要な機器を提供した。次の段階は、中国が自力で国産化することになる。契約によると、「ウクライナは中国に 2 艘の ZUBR を提供し、中国は独自に 2 艘を組み立てる。そしてさらに 1 艘の追加組立の権利を留保する」というものだ。したがって中国海軍陸戦隊は現在 3 艘の ZUBR を保有している。

KDR は、中国のエアクッション艇建造の全体計画はこの 4 艘だけに留まらないと考える。クリミアはすでにロシア領になったが、中国人の模倣能力が高いことからこの影響を受けず、中国は、数年内に ZUBR を自力生産する。それは周辺諸国にとって重大な問題となるであろう。

KDR は次のように評価している：近年来、中国海軍は各種大型水上艦及び 056 型近海パトロール艦を猛スピードで生産している。このことから見ると、台湾海峡の政治、軍事情勢によって決まるが、ZUBR 型大型エアクッション艇の海軍陸戦隊への配備数は 20 艘以上になる可能性がある。その上多くの従来の 726 型中型エアクッション艇が加われば、エアクッション艇の総数は 50 艘に達する。中国は、国産した ZUBR を輸出する可能性もあり、その場合、ロシアにとっては衝撃となる。

搭載ガスタービン・エンジンは、ウクライナ製 GTG100K エンジンであるが、中国はすでにウクライナ製ガスタービンエンジンの技術的特徴を熟知しており、すでに UGT25000 大型ガスタービン・エンジンの生産許可権を獲得している。

これを基礎にすれば、中国は GTG100K をコピー生産することが可能だ。このガスタービン・エンジンは、ZUBR に 3 台搭載されているが、中国国産の 726 型エアクッション艇には同エンジンが 2 台搭載されている。

中国が ZUBR と 726 型エアクッション艇の数をある程度装備すると、台湾、東シナ海及び南シナ海における係争中の島嶼への上陸作戦方式が根本的に変わる。伝統的な上陸作戦ではなく、超視距離渡海上陸作戦が可能になる。

ZUBR 型（726 型）の基本スペックは以下の通り。

①航行速度：55 乃至 60 ノット（726 は同じガスタービン・エンジンを使用しているため、速度はほぼ同じと判断）

②満載排水量：555 トン（150 トン）

③ペイロード：131 トン（推定 60 乃至 80 トン）

④航続能力：風浪階級 4 の条件下で 5 昼夜（推定 2 昼夜）。

⑤満載時航続距離：300 海里（推定 150 海里）

⑥軽積載時航続距離：1000 海里（300 海里）

ZUBR 型は密閉式大型船室を装備し、ペイロード 131 トンの積載方式には次の方式があると推測される。

方式 1：3 両の重型戦車＋兵員 140 名

方式 2：10 両の歩兵戦車＋兵員 140 名

方式 3：兵員 500 名、そのうち 360 名は人員輸送用モジュール使用

726 型エアクッション艇の輸送方式は、現在までの海軍陸戦隊の演習を見た限りでは、1 両の 96 式主力戦車を搭載していた。貨物室は開放式である。

これから推測すると、726 のその他の搭載方式は、

方式 1：2 両の中国版遠征戦闘車

方式 2：200 名の完全武装の兵員

726 は、071 型ドック型揚陸艦に搭載される。071 型は、4 艘の 726 を搭載する。

現在、3 艘の 071 型が就役しているようであり、単純計算すると、726 の就役艘数は 12 艘以下のはずである。726 が出現してからすでに 7 年近くになる。なぜ中国は 726 の大量生産に移行しないのであろうか？

実際、大型エアクッション艇の技術は相当複雑である。ウクライナで生産された ZUBR がギリシャ海軍で就役中に激しい揺れの問題が発生している。また ZUBR の製造単価が 7000 万ドルと高価である。したがって 726 の緩慢な生産速度を見ると、やはり大型エアクッション艇の運用に関しては、未だ実験的な段階にあるのではないか。技術的な問題は遅かれ早かれ解決される。中国にとって軍事予算は問題ではない。KDR は、中国がこの 2 種類のエアクッション艇の大量生産を開始するのは今後 10 年以内であると推測している。

現在台湾海峡作戦に用いることを前提に設計されているエアクッション艇の特性を分析すると：

1. 高速性

1 ノットを時速 1.852km として計算すると、55 乃至 60 ノットは、時速 101 乃至 111km である。言い換えれば、台湾北部に対する渡海上陸に要する時間は約 1 時間 10 分乃至 2 時間と短時間である。台湾海峡北岸まで最も近い距離は僅か 130km である。澎湖列島に上陸する場合、距離 140km とすると渡海所要時間は 1 時間 15 分である。

上述の ZUBR の航行速度は、当然参考値に過ぎない。航行速度に影響する要素は多々あり、例えば搭載量が多く、満載状態であれば航行速度は低下する。KDR がウクライナの MORYE 造船所の専門家に聞いたところ、彼らはデータを示して説明した。すなわち、ZUBR はたとえ 131 トンの満載時であっても 60 ノットの航行速度に到達することが出来る、と。

このほか、航続距離はどの程度なのか？距離が長くなれば、最大速度での燃料消費を考慮しなければならない。また海況も考慮しなければならない。

ZUBR 及びその他の現代型大型エアクッション艇は、風浪階級 4 の条件下での運用が求められている。

結論は：実戦における ZUBR の航行速度は、作戦対象及び距離に左右される。台湾海峡における運用においては、距離が近いので、最高速度の 60 ノットに近い速度で運用される可能性がある。

ここではさらに、中国海軍陸戦隊及び陸軍がますます多くの Z-8 及び Mi シリーズの武装ヘリを装備しはじめたことを考慮しなければならない。すなわちエアクッション艇以外の快速、立体、垂直上陸方式を組み合わせることによって、ZUBR 及び 726 を使った中国海軍陸戦隊の重武装、特殊部隊の上陸速度は大幅に向上する、ということだ。

東シナ海尖閣群島/釣魚島作戦海区での運用：

ZUBR は、日米の LCAC に比べるとはるかに大型である。LCAC の就役数は 91 艘で、米国海軍快速上陸の主力となっている。搭載重量は 60 トンで最大速度は 70 ノットである。通常 1 両の主力戦車と 24 名の兵員を運搬する。日本もまた装備している。したがって東シナ海の係争中の島嶼争奪戦においては、ZUBR、LCAC とともに利点がある。ZUBR は大型で、1 艘の ZUBR の搭載量は 2 艘の LCAC の搭載量に匹敵し、しかも航続距離も長い。LCAC は、速度が ZUBR よりも大きい航続距離は 200 海里である。

尖閣群島/釣魚島は、中国海岸から 300km、沖縄本島から 420km の距離にある。双方がエアクッション艇を使用すると、迅速性では中国が有利である。しかし

航続距離が短い LCAC は、上述島嶼作戦においてはドック型揚陸艦と組み合わせて運用される。

中国沿海から上述島嶼までの実際の距離を考慮すると、ZUBR は、対日奪島作戦における航行速度を時速 80 乃至 90km 前後に設定する可能性が最も高い。したがって遠海での島嶼争奪戦においては、ZUBR の航行速度は、かえって航続距離の短い LCAC よりも遅くなる。

南シナ海島嶼争奪戦での運用：

前述のごとく、軽載状況下での ZUBR の航続距離は 1000 海里である。軽装備のベトナム、フィリピン軍が駐屯している島嶼の争奪戦では装甲武器は必要ない。したがって ZUBR に軽載の 140 名の武装兵員を載せ、永興島を基地にすれば、ベトナム、フィリピンと係争中の主要な島嶼は、すべて ZUBR の行動範囲に入る。したがって中国海軍にとって、ZUBR の重要性は推して知るべし。周辺国家は、大型エアクッション艇を装備していない。

2. 重武装化の上陸モデル：

このモデルは、特に対台湾作戦中、ZUBR と 726 の混合方式をもって、機械化海軍陸戦隊及び軽型歩兵部隊を輸送上陸させる方式を指し、15 艘の ZUBR、20 艘の 726 で混合上陸させる計算である。ZUBR は重武装運搬に用い、726 は、武装兵員を輸送する：

1 案：主力戦車 45 両、兵員 2100 名（ZUBR）+4000 名（726）約 1 個機械化歩兵旅団の規模である。

2 案：8×8 輪歩兵戦闘車、装甲車両 150 両、兵員数同じ

東シナ海島嶼争奪戦中、ZUBR が最初に運搬する重型武器は日本海上自衛隊の重型武器に比べても多い。

3. 突破性：

ZUBR の航続距離は 300 海里に達し、ドック型揚陸艦を必要としない。したがって対日本、対台湾の奪島作戦においては、多方向からの上陸が可能になる。例えば高速で特殊部隊を台湾東北部、北部等に侵入させる等。しかし 726 及び米軍の LCAC は多方向からの突破が実施できない。またドック型揚陸艦に依存するため、被攻撃目標が巨大であり、乗り換える前に母船が撃沈されてしまう可能性がある。

4. 防御性：

ZUBR は、火災に弱いほかは、速度が大きく、良好な機動性と防御力がある。

武装ヘリやミサイル高速艇が ZUBR を攻撃する場合、普通の船舶を攻撃するよりも難しい。またミサイル高速艇を攻撃するよりも難しい。すでに出現した中国版 ZUBR を見ると、データリンク・アンテナ、2 基の複製版 AK630 型 30 ミリ速射砲を含め、武器、作戦システムは中国製だ。AK-630（原版）の性能は最大射程 5000m、射速 5000 発/分、初速度 875m/sec である。これは主として対艦ミサイル用である。ロシアのオリジナル版の ZUBR 武器系統は、2 種類あり、防空用には 2 基の AK-630、対岸攻撃には 2 基の MS-227 型ロケットシステムを搭載する。

本文を総括すると、中国における ZUBR の大量生産と配備は、台湾海峡及び東シナ海・南シナ海における奪島作戦の様相を劇的に変化させることになるだろう。

以上